

## 平成24年度 第3回京都市公共事業評価委員会 議事概要

第3回委員会では平成24年度事後評価対象事業の審議を行った。

1 日 時 平成24年9月5日（水） 午前10時00分～午前10時40分

2 場 所 京都ガーデンパレス 2階「葵」

3 出席者

(1) 委員

小林委員長，荒川副委員長，葛城委員，川浦委員，桑原委員，佐伯委員，徳久委員

(2) 市職員

建設局土木技術担当局長，建設局建設企画部長，建設局建設企画部担当部長，建設局都市整備部長，ほか関係職員

4 内 容

委員会における質疑応答は、以下のとおり。

### ・土地区画整理事業「1 竹田地区」

委 員： 交通の便利なところであるが、この地区内にマンションの計画や建設実績はあるのか。

京都市： 土地利用計画としては、竹田地区の西側のエリアが準工業地域であり、東側のエリアが住居地域である。竹田駅の東側では、民間によるマンションが建設されてきている状況である。

委 員： まだ建設されていないが、計画はあるということか。

京都市： 京都市による建設の計画はないが、民間によるマンションは、既に建設されている状況である。

委 員： 京都市の対応方針案は妥当であるとする。

### ・防災水利整備事業「2 文化財とその周辺を守る防災水利モデル整備」

委 員： 本事業は、新規採択時評価を実施し、昨年度に事業が完了したということで、事後評価の対象となっているが、事業期間が短かったため、本委員会で再評価の審議は行っていない事業である。

委 員： 今回整備された1,500<sup>m</sup>型耐震性貯水槽2基、合計3,000<sup>m</sup>の水源は何か。補給は可能なのか。面的な災害が発生した場合、長時間で考えると3,000<sup>m</sup>では足りないと思うがどうか。

京都市： 最初は水道の水を入れており、それ以降は雨水で補給している。貯水槽の水が一定のラインまで減ると減水警報が鳴るようになっているが、今まで減水警報が鳴ったことはない。

3,000<sup>m</sup>の水量については、延焼シミュレーション等により設定している。延焼シミュレーション等の結果、緊急消防援助隊が到着し、延焼拡大を防止するの

に必要な水量が3,000 m<sup>3</sup>となった。

委員： この事業は、国のパイロットプランとしてスタートしたが、短期間で色々な面に配慮して完成したことは評価できている。今後、このような事業が、京都市の他の伝統的建造物群保存地区にも展開していくことになるのか。

京都市： 予算や地域の事情等の関係もあり、今のところ他の地区への展開は考えていない。

委員： 予算や地域の事情等の関係もあると思うが、せっかく良いモデルができているので、他の地区にも展開していけるようになればいいと思う。

昨年度の防災訓練の実施回数が920回とそれまでの約60倍に増えているが、今年度以降も昨年度並みの頻度で訓練を行っていくのか。

京都市： 防災訓練の頻度に関しては、住民の方全員に防災施設を使ってもらえるようにするため、ここ数年は昨年度並みの頻度で訓練を行っていきたいと考えている。

委員： 施設を整備するのはすぐには無理かも分からないが、ソフト面でどこがネックになっているのかは検討しておく必要がある。

委員： 東山区はお年寄りが最も多い地区になるので、防災訓練の方法も色々考えないといけないと思う。

委員： 京都市の対応方針案は妥当であるとする。

